

第1部 令和元年の概要

1. 年別発生状況

東京消防庁管内では、日常生活における事故により平成27年から令和元年までの5年間に、686,072人が救急搬送され、年々増加しています。令和元年中は、144,767人で、過去5年間で最も多く救急搬送されています（図1-1）。

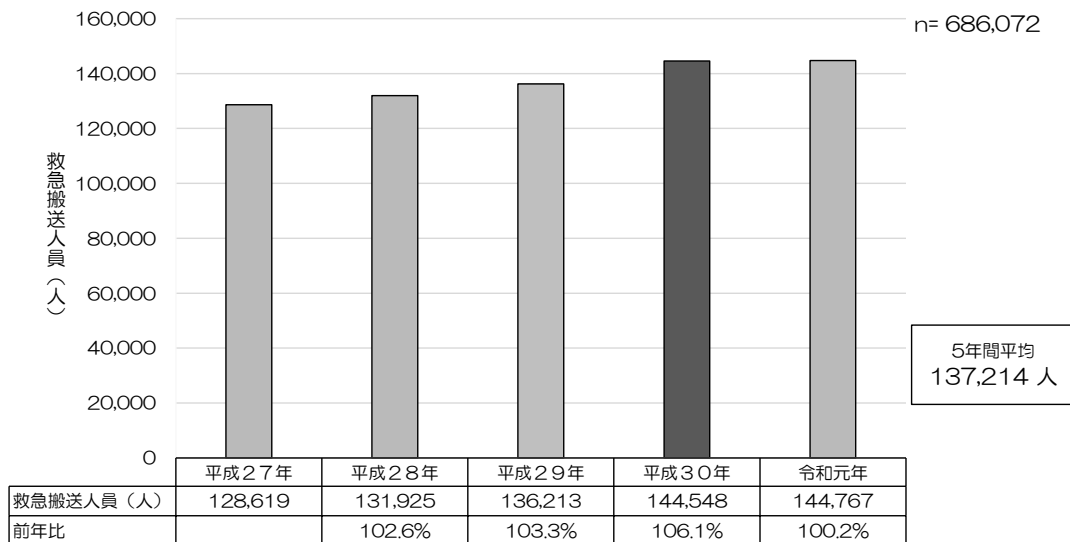


図1-1 年別の救急搬送人員

2. 年齢層別搬送人員

年齢層（5歳単位）別の救急搬送人員をみると、乳幼児と高齢者に多く発生しています（図1-2）。

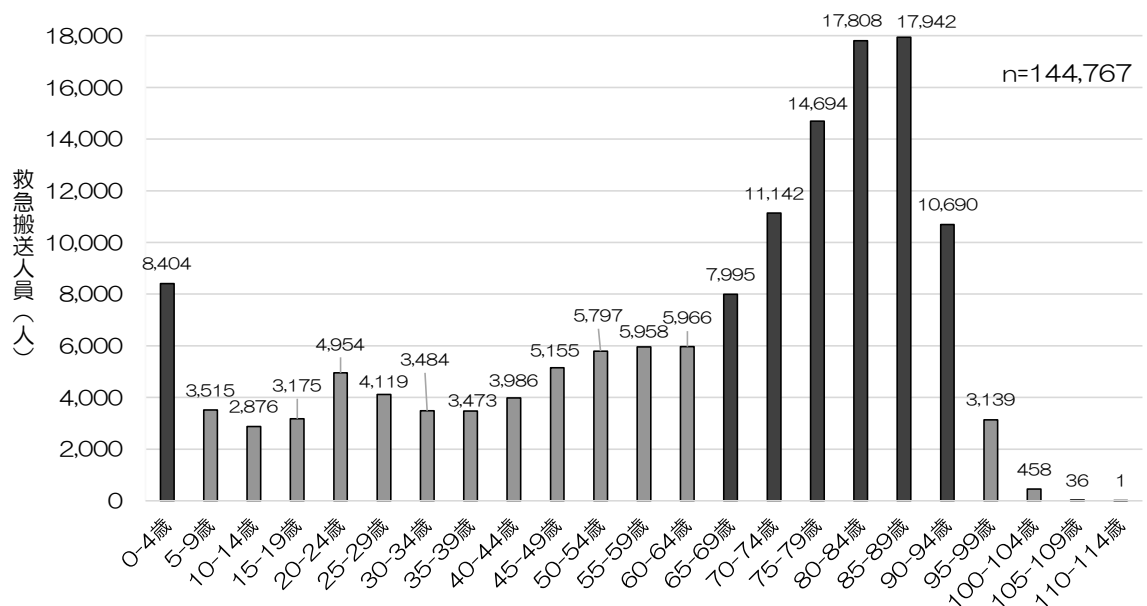


図1-2 年齢層別の救急搬送人員

3. 月別・時間帯別搬送人員

月別にみると、8月の14,513人が最も多く、次いで12月に13,805人が救急搬送されています（図1-3）。

時間帯別でみると、9時から20時台までは7,000人以上が救急搬送されています（図1-4）。

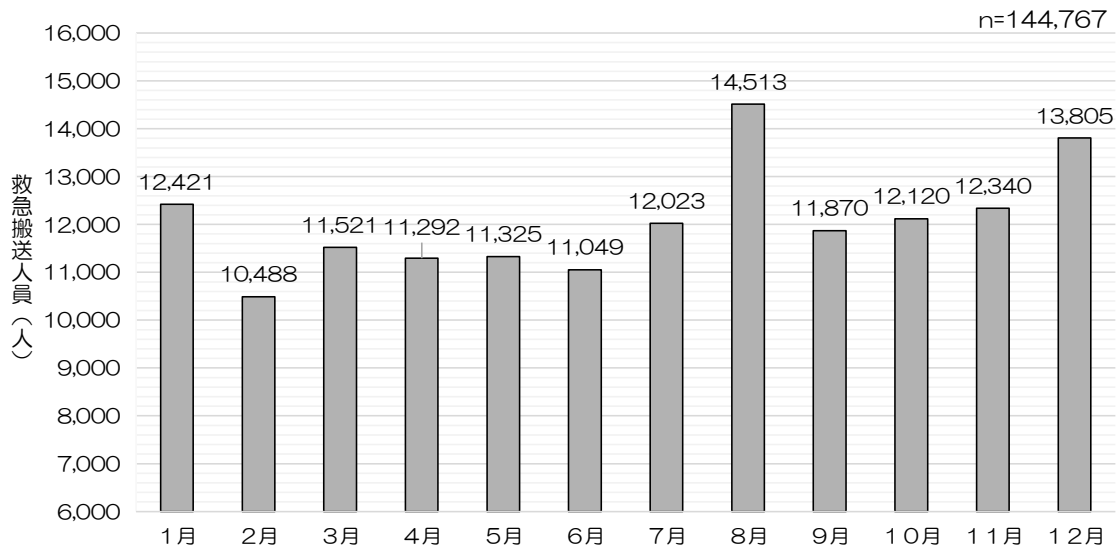


図1-3 月別の救急搬送人員

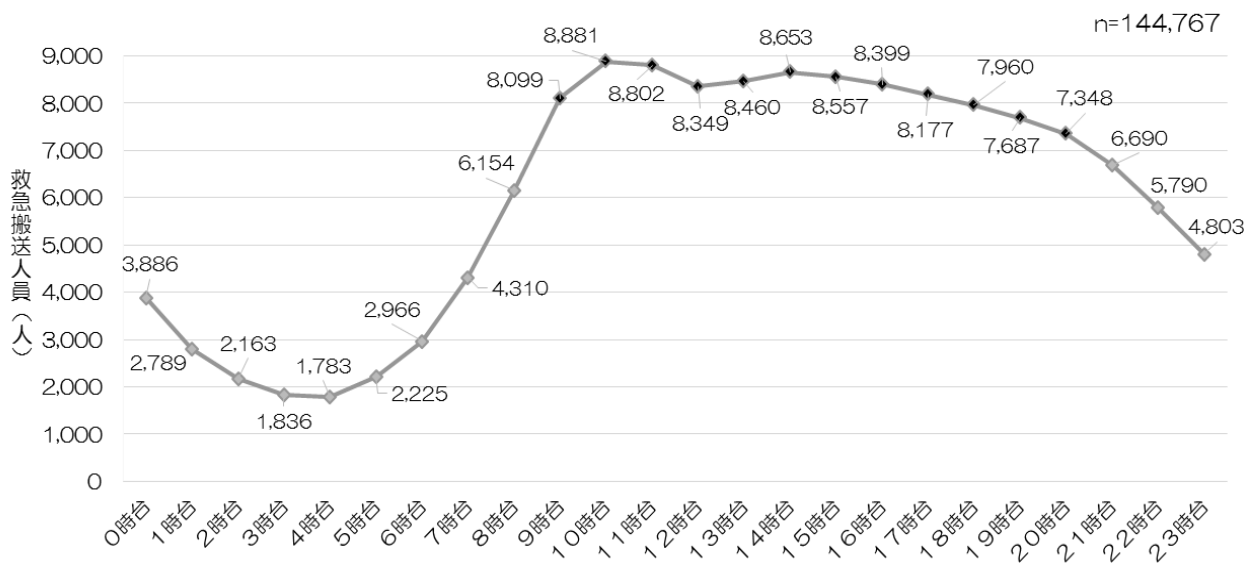


図1-4 時間帯別の救急搬送人員

4. 事故種別ごとの搬送人員

事故種別ごとにみると、「ころぶ」事故が全体の約6割を占め最も多くなっています。
 なお、事故種別ごとの概要については第2部で取り上げています（図1-5）。

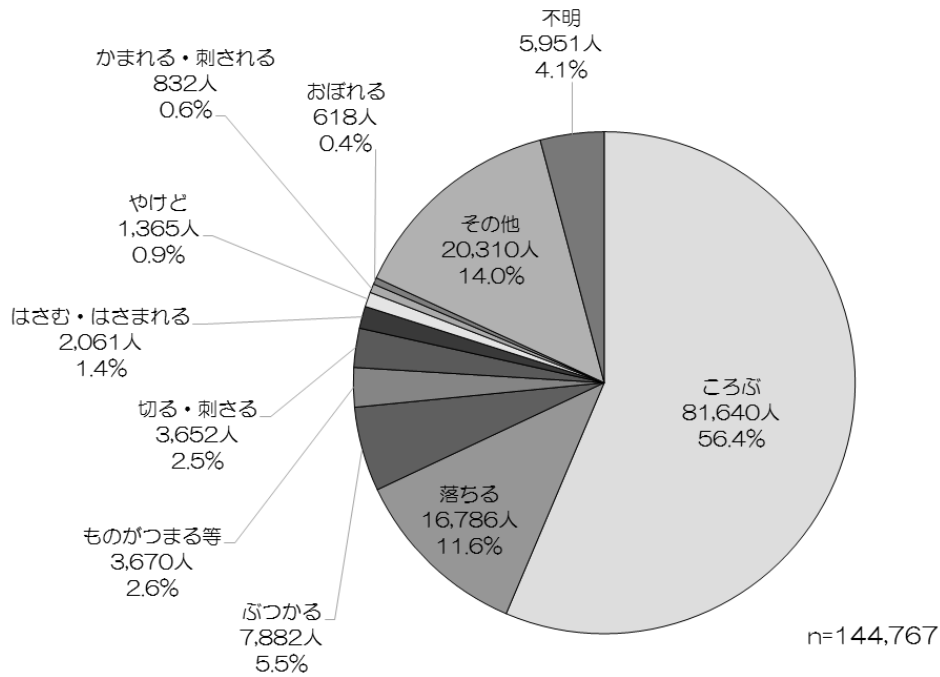


図1-5 事故種別ごとの救急搬送人員

5. 発生場所別搬送人員

発生場所別にみると、半数以上が住宅等居住場所で発生しています（図1-6）。

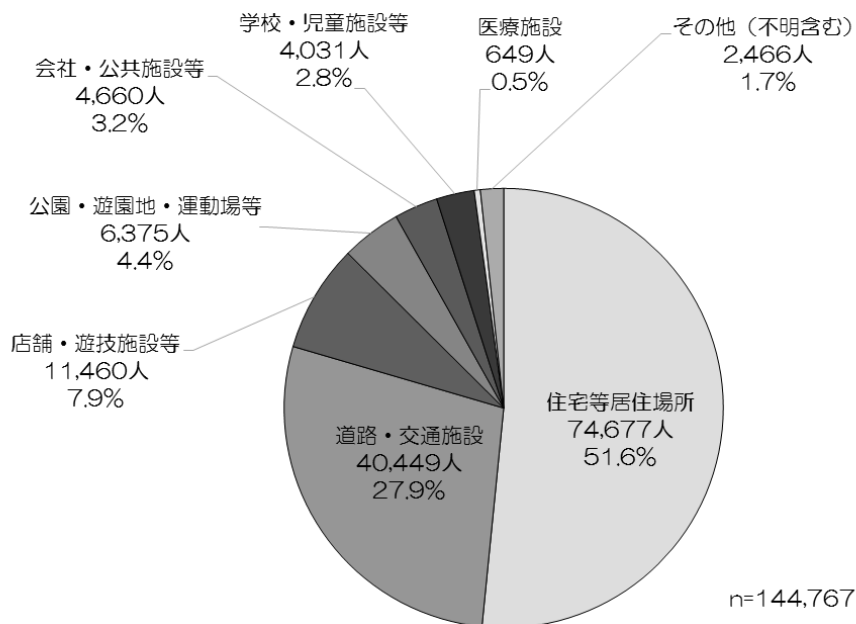


図1-6 発生場所別救急搬送人員

6. 初診時程度別搬送人員

救急車で搬送された人の初診時程度をみると、3割以上が入院を必要とする中等症以上で、生命に危険を及ぼすような事故も発生しています（図1-7）。

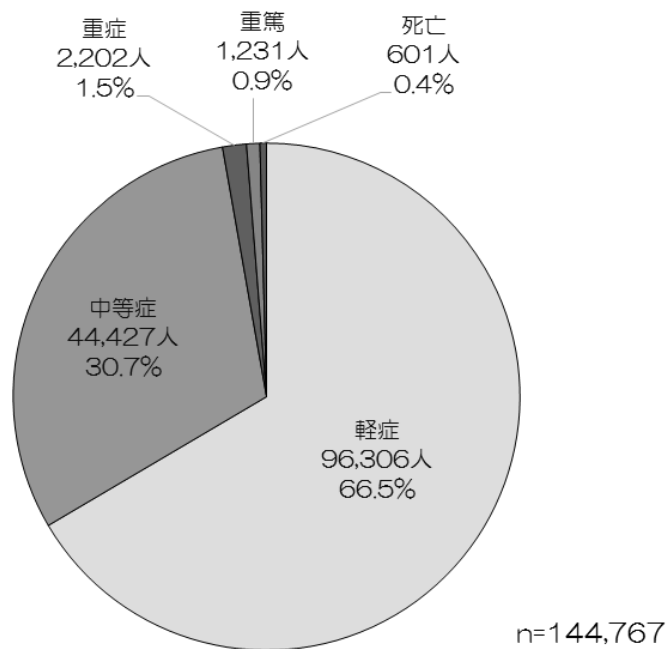


図1-7 初診時程度別救急搬送人員